

【資料3】博士後期課程進学についての学生を対象とした意向調査

実施時期：平成30年5月～平成31年2月（第1期平成30年5月、第2期平成31年1月配布）

対象者：博士前期課程在籍者全員、学部4回生（第2期のみ）

配布方法：専攻毎に担当教員を通じての研究室への配布

回収方法：配布後2週間程度、学務課にポストを設置し、対象者が提出

回答数：425票（在籍者965人）

回答率：44.0%（4回生:24.0%、M1:82.7%、M2:66.3%）

2期にわたりアンケート調査を行った。院生全体での回答数（回収率）は、文学系51名（64.6%）、生活環境科学系98名（71.5%）、理学系125名（75.8%）に回答を得た。大学院生全体では74.0%（M1:82.7%、M2:66.3%）の回答率であったが、4回生に関しては24.0%と回収率が低いが、これは卒業研究提出時の1月から2月に行われたためである。

所属する学科・専攻を記入していない回答が30人分あったが、この後の専攻ごと/学年ごとの解析からはこれらの記入なしの票数は除くこととする。

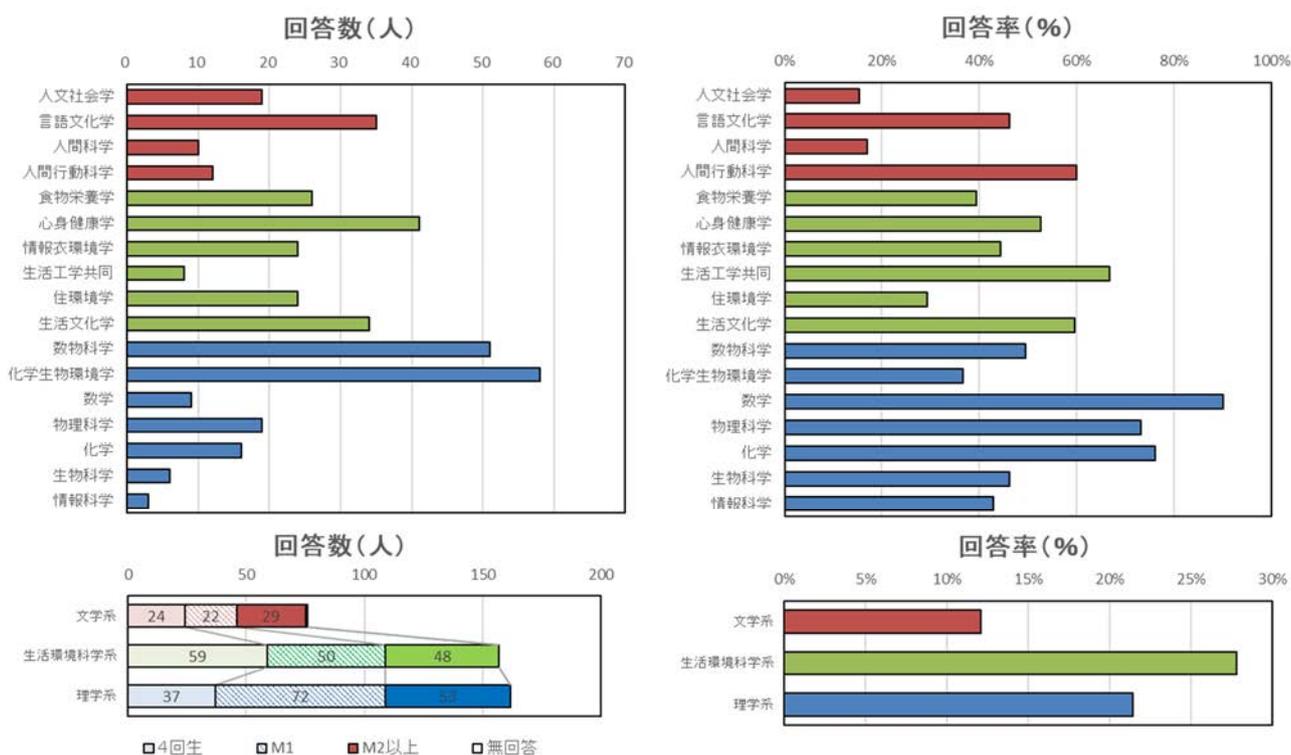


図1 アンケート回答数および回答率

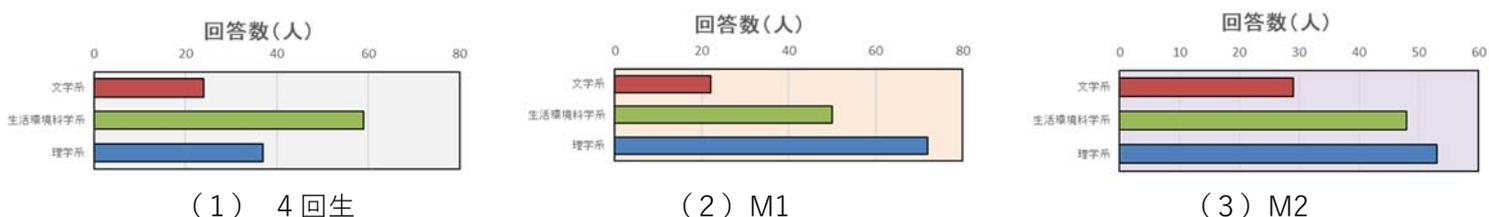


図2 学年別回答数

1. あなたは博士後期課程（ドクターコース）進学に関心がありますか？

回答者のうち、66名が「関心がある」と答えており、「少し関心がある」も含めると151名（回答者のうち38.2%）である。学系別にみると「関心がある」「少し関心がある」の合計で、文学系34名（44.7%）、生活環境科学系68名（43.3%）、理学系49名（30.2%）である。

学年ごとに分析すると学年によりばらつきが大きい。組織改変時に博士後期課程に入学する可能性のあるM1の「関心がある」「少し関心がある」は全体で59名となり、学内からだけでも定員（38名）を上回る人員が関心を持っている。それぞれの専攻に対応する学系別では、文学系で10名、生活環境科学系で30名、理学系で19名となっている。本学では、約半数が学外からの進学者であることを考慮すると、専攻別でも関心は高いと言える。

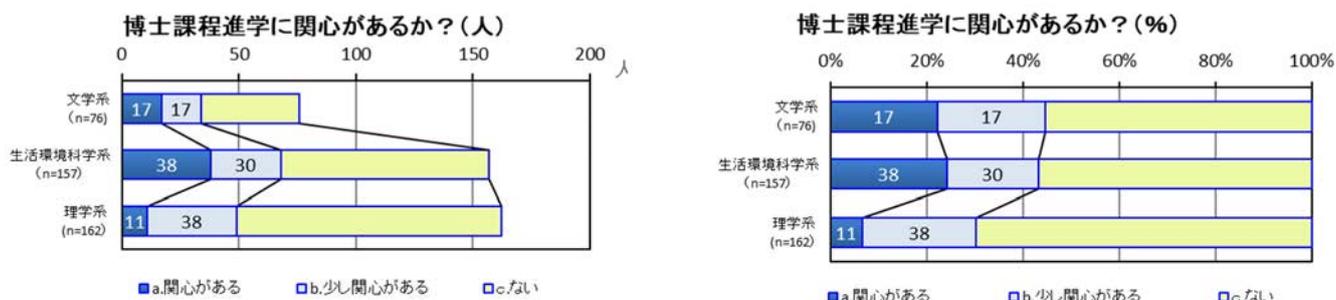


図3 「1. あなたは博士後期課程（ドクターコース）進学に関心があるか」についての回答数および回答率

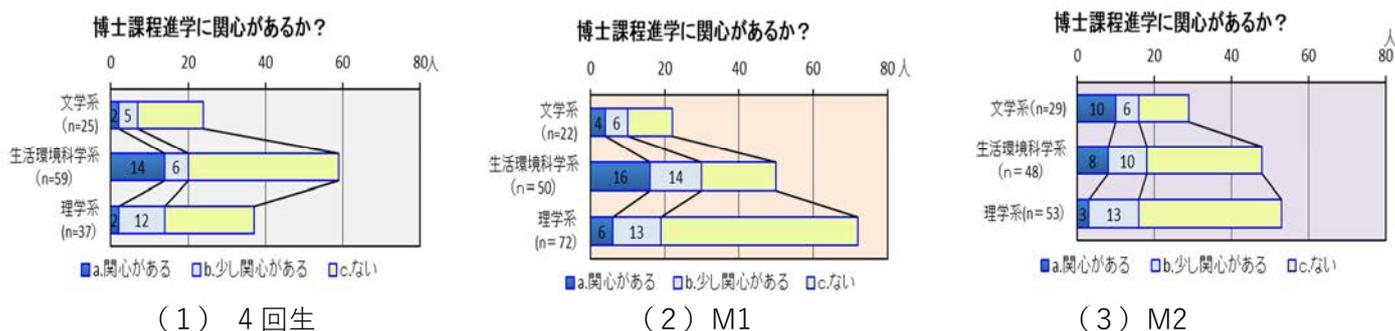


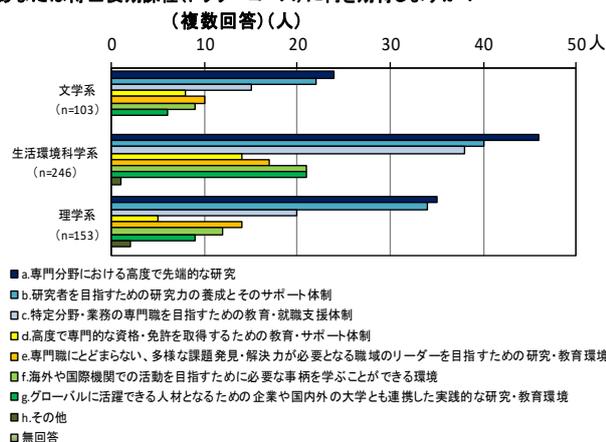
図4 「1. あなたは博士後期課程（ドクターコース）進学に関心があるか」についての学年別回答数

2. あなたは博士後期課程（ドクターコース）に何を期待しますか？（複数回答）

「関心がある」「少し関心がある」と答えたものに対して、博士後期課程（ドクターコース）に対する関心について問うたところ、博士後期課程に期待することは、どの学系も、「a. 専門分野における高度で先端的な研究」「b.研究者を目指すための研究力の養成とサポート体制」を期待するものが最も多く50%~70%に達する。次いで、「c.特定分野・業務の専門職を目指すための教育・サポート体制」となっており、生活環境科学系では、60%近くなり、比較的低い文学系、理学系でも40%に達している。

一方「d.高度で専門的な資格・免許を取得するための教育・サポート体制」は資格や免許の具体的なものがないため、どの学系でも最も少なく、総合性にかかわる「e.専門職にとどまらない、多様な課題発見・解決力が必要となる職域のリーダーを目指すための研究・教育環境」、国際性にかかわる「f.海外や国際機関での活動を目指すために必要な事柄を学ぶことができる環境」、「g.グローバルに活躍できる人材となるための企業や国内外の大学とも連携した実践的な研究・教育環境」については、どの学系でも30%弱程度となっている。

あなたは博士後期課程(ドクターコース)に何を期待しますか？



あなたは博士後期課程(ドクターコース)に何を期待しますか？

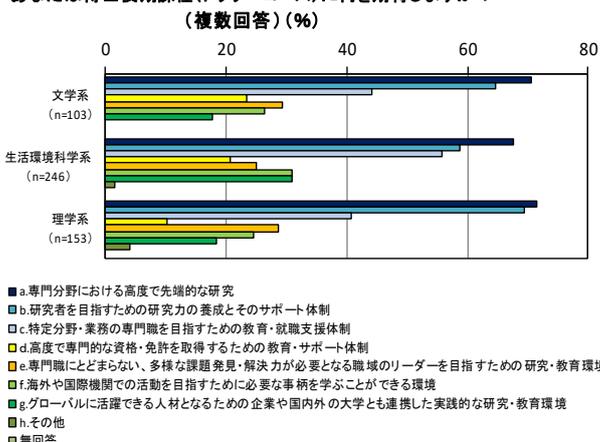


図5 「2. あなたは博士後期課程（ドクターコース）に何を期待しますか」についての回答数および回答率

3. 奈良女子大学大学院博士後期課程についてどの程度関心があるか

4. 現在計画中の博士後期課程の改組（組織改変）と関連して、どの程度関心があるか

「関心がある」「少し関心がある」と答えたものに対して、奈良女子大学大学院博士後期課程（ドクターコース）の現在計画中の改組（組織改変）と関連して、どの程度関心があるかについて問うたところ、概ねどの項目も非常に関心が高かった。

博士後期課程（ドクターコース）への関心では、どの学系も関心が高く、どの項目も「関心がある」「少し関心がある」が60%を超えている。特に、「広い視野を持ち高度な専門能力を有する女性リーダーの育成」のための教育ではほぼ80%が、「専門的で高度な知識や技能の習得」はほぼ100%に近いものが関心を持っていた。一方『長期履修学生制度』や『ならっこネット』など、「女性のライフイベントに寄り添った修学サポート体制」「留学生や社会人の修学を支援する取組み」に対しては、一定の関心があるが、社会人や留学生を対象とした制度であるため、比較的関心が低い「関心がない」「あまり関心がない」は20%以下で在学生からも関心を持たれていることが分かった。

専攻別でも学年別でも、多少のばらつきはあるが、この傾向には、ほとんど差がなく、同様の傾向があり、極めて高い関心があるとみることができる。

後期課程の内容や支援に関心があるか？(全学n=159)

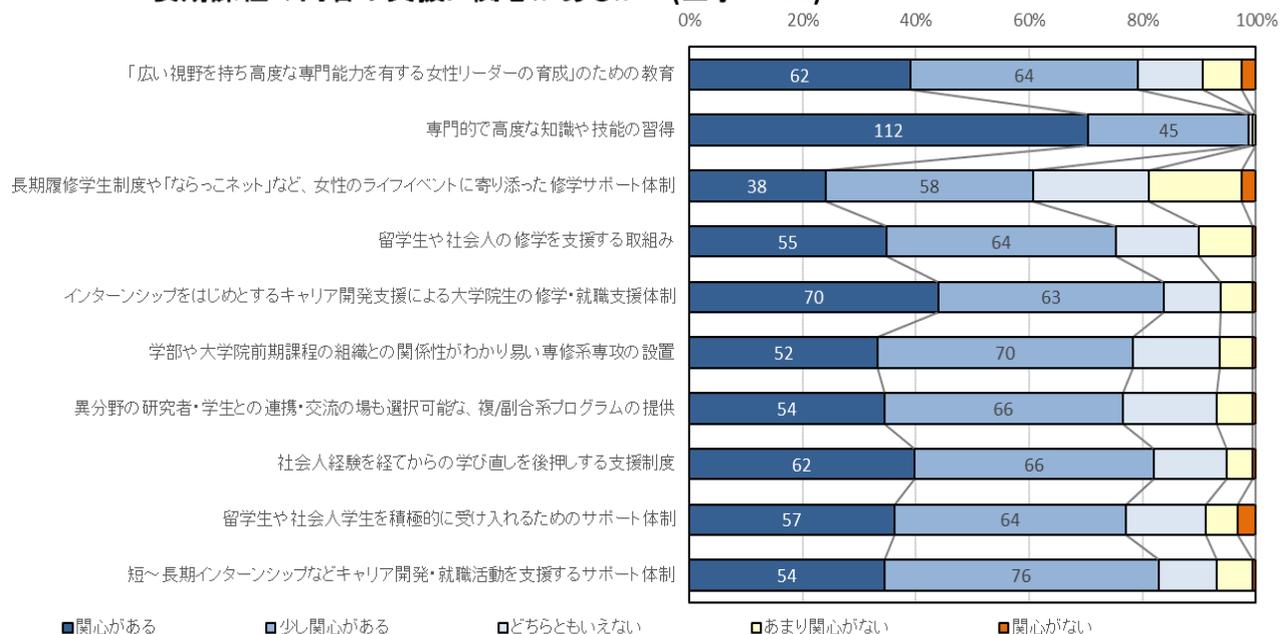


図6 「3. 4. 奈良女子大学大学院博士後期課程（ドクターコース）、および現在計画中の博士後期課程（ドクターコース）の改組（組織改変）と関連して、どの程度関心があるか」についての回答率

5. 奈良女子大学大学院博士後期課程に進学したいか

「あなたは奈良女子大学大学院博士後期課程に進学したいか？」という問いに対しては、「強く思う」「思う」の合計で42名となり、文学系、生活環境科学系は回答者の30%程度であった。「(経済的負担など)事情が許せば進学したいと思う」という学生まで合わせると合計80名(所属不明の学生を合わせると82名)となり、経済的負担等の補助などの重要性がうかがわれる。

学年ごとにかかなりのばらつきがあるが、改組(組織改変)時に後期課程に入学する可能性のあるM1の「強く思う」「思う」は全体で19名、「(経済的負担など)事情が許せば進学したいと思う」を含めると、33名となり、学内からだけでも概ね定員(38名)に達する学生が進学意欲を持っている。それぞれの専攻に対応する学系別では、文学系で5名、生活環境科学系で19名、理学系で9名となっている。本学では、約半数が学外からの進学者であることを考慮すると、経済的な負担などのハードルが超えられれば、専攻別でも定員確保は可能であると考えられる。

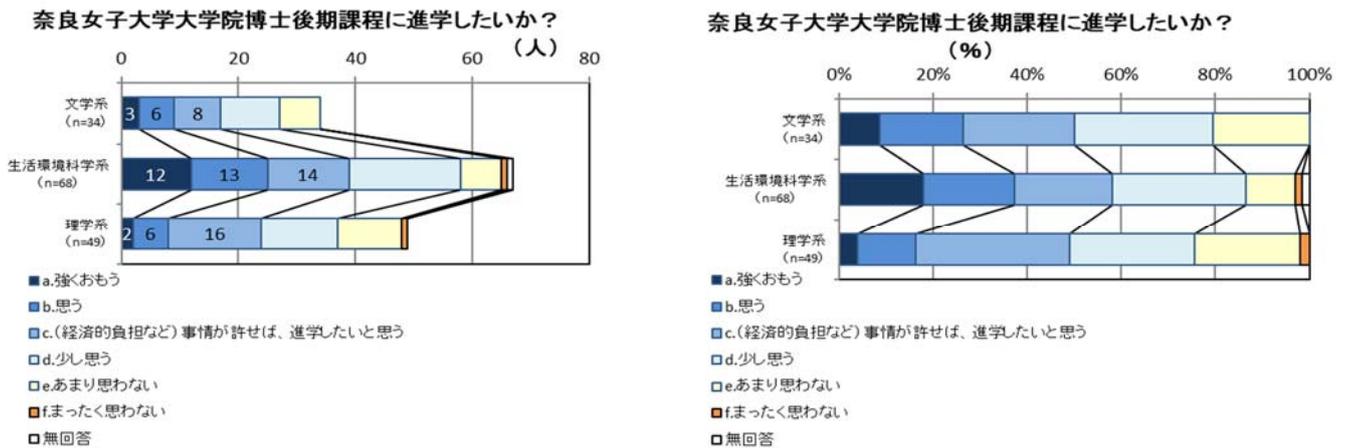


図7 「5. 奈良女子大学大学院博士後期課程に進学したいか」についての回答数および回答率

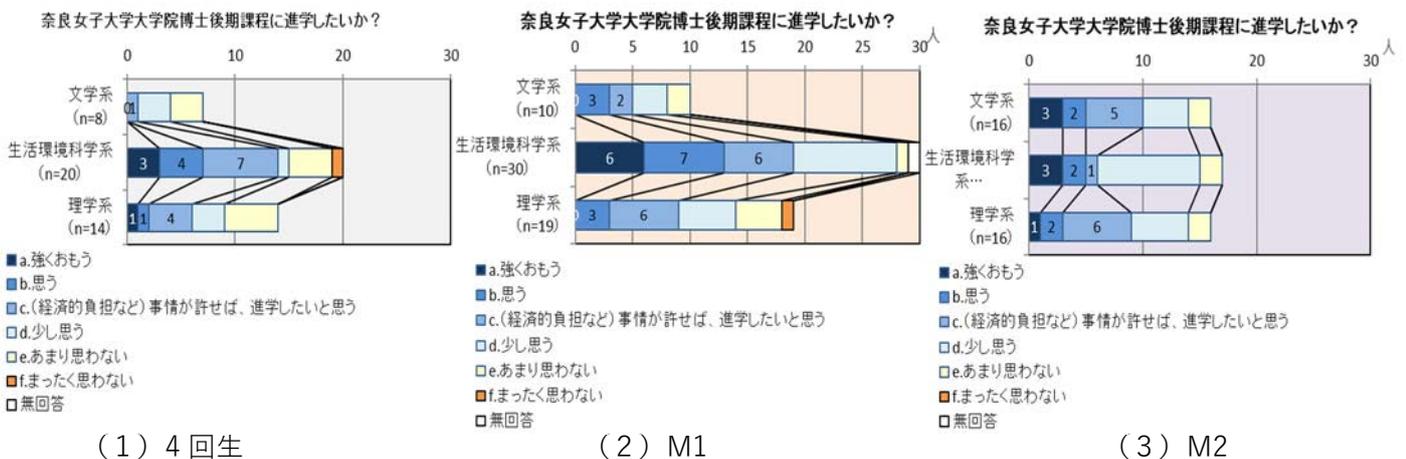


図8 「5. 奈良女子大学大学院博士後期課程に進学したいか」についての学年別回答数

奈良女子大学大学院博士後期課程（ドクターコース） が新しくなります！

大学院博士後期課程（ドクターコース）は、平成32年度（2020年4月）から組織を改める（改組する）べく、現在、検討中です。この改組計画案（裏面も参照してください）について、大学院博士前期課程（修士課程）在学中の皆さんに、ぜひ別紙アンケートの御協力をお願いいたします。

■ 目的 ■

本学は、これまで、学界、教育界、自治体、企業、地域社会等、社会のさまざまな分野で、地に足をつけ、しなやかに活躍する女性リーダーを育成してきました。このような本学の伝統と実績は、学部から博士前期課程までの6年一貫教育プログラムなどを導入した平成30年度博士前期課程改組によって更に強固なものとなりつつあります。今回の博士後期課程改組では、平成26年度に実施した学部改組と平成30年度に実施した大学院前期課程の改組を踏まえ、これからの新しい時代に柔軟に対応しうる最先端の女性人材育成組織を構築することを目指しています。

■ 博士後期課程改組の概要 ■

今回の博士後期課程改組の特徴は、おおよそ以下のようなものです。

- ・ 既存の研究科＞専攻＞講座＞コースの組織構造を、学部や大学院前期課程との関係性がわかり易い専修系履修系列を核とした構造に再編します。（裏面上段の図を参照してください。）
- ・ 一方、本学でこれまで培われてきた博士後期課程における融合的・複合領域的な研究分野を継承・担保しつつ、新しい時代の要請にも柔軟に対応できるよう、複合系履修系列プログラム^{注1)}を導入します。（裏面下段の図を参照してください。）
- ・ 履修系列複合系プログラムの選択は必須ではありませんが、主専攻に加え複合系プログラムを選択・修了した学生には、プログラム履修証明書を発行します。また学位審査についても、主専攻で審査を受けるか、複合系で審査を受けるか選択が可能となるよう検討しています。
- ・ 現行の「長期履修学生制度」や「ならっこネット」^{注2)}などの修学支援制度の他、「再チャレンジ型女性研究者支援制度」^{注3)}や「ホームカミング・リカレント支援制度」^{注4)}など、社会人の修学とリカレントを後押しする各種の優遇措置や、女性の多様なライフイベントに寄り添った支援策について導入を検討しています。
- ・ 留学生の修学を支える各種の支援策（たとえば、すべての授業科目を英語で履修可能とする仕組みや留学生向けの日本文化・日本事情に関わる授業科目の強化など）を検討しています。
- ・ インターンシップのコーディネートや大学院博士後期課程学生に対する研究活動・就職活動に対する経済的な支援を含めた各種サポート体制の強化を検討中です。

注1) 主専攻にプラスして、異文化・異分野融合の諸活動を行うプログラム。

注2) 大学が運営する有料の子育て支援システム。

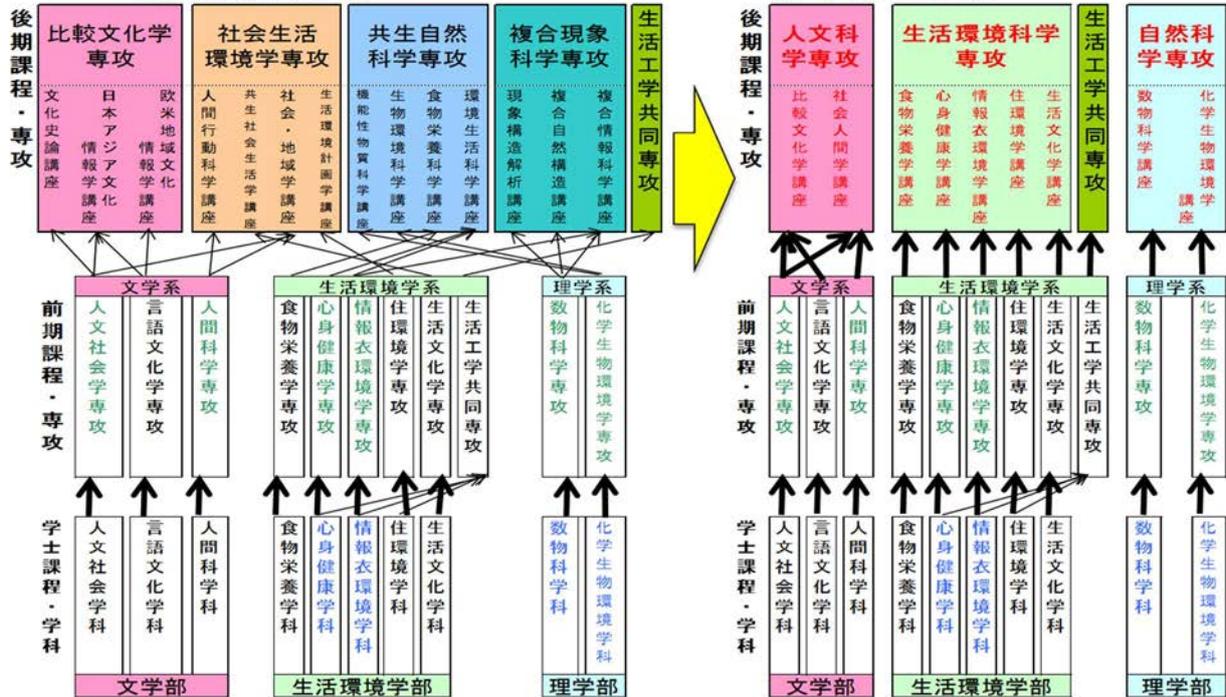
注3) 博士後期課程中退者が、本学博士後期課程へ入学する場合、入学金を不徴収とし、既習得単位を最大10単位まで認める制度。

注4) 本学の博士前期課程修了者が、1年以上の空白期間を経て博士後期課程へ入学する場合でも、入学金を不徴収とする制度。



【手段Ⅰ】学生にとって見通しやすい組織づくり

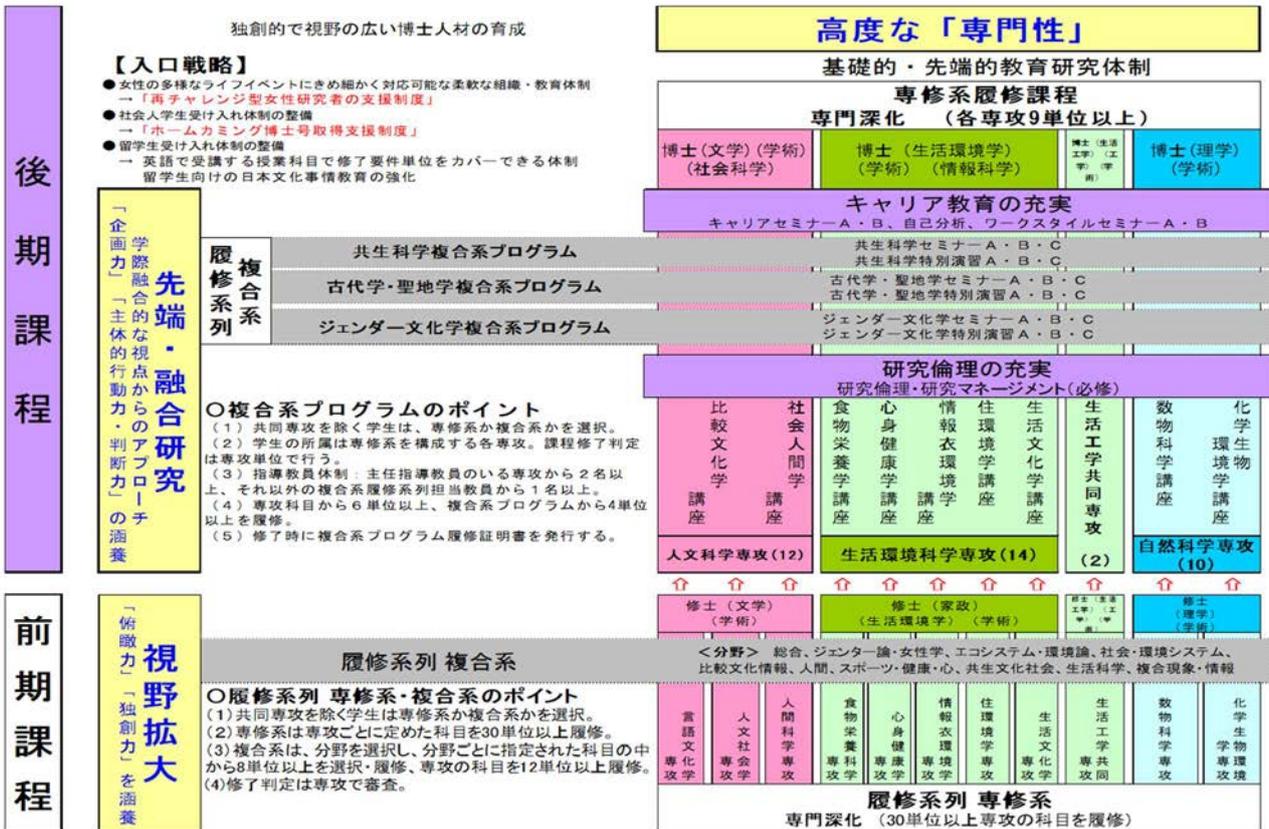
専門性を強化する仕組み → 平成26年度、平成30年度の改革・改組の理念をさらに推進・強化
 現行(H32.3まで) → 新(H32.4から)



青字：H26年学部改組
 緑字：H30年度大学院前期課程改組・名称変更
 赤字：H32年度大学院後期課程改組予定



【手段Ⅱ】柔軟で先端的・融合的研究活動体制の整備



大学院博士後期課程進学についてのアンケート

このアンケートは、みなさんの大学院博士後期課程(ドクターコース)進学に対する考えをお聞きするために行います。調査は無記名で行い、個人の回答が特定されることはありません。また成績その他に影響することは一切ありません。別紙の説明資料を参照しながら回答していただけたらと思います。ぜひ調査にご協力いただける様お願い致します。

あなたの学年に○をつけ、所属について記入してください。書ける範囲で結構です。

学年: 4回生 ・ M1 ・ M2 (就職予定 ・ 進学予定) (かっこ内にも○を付けて下さい)

専攻・コース: _____

1. あなたは博士後期課程(ドクターコース)進学に関心がありますか？下記から一つ選んで記号に○をつけて下さい。

- a. 関心がある
- b. 少し関心がある
- c. ない

⇒cを選択した方はここまでで終了です。ありがとうございました。

1. で、aかbを選択した方は、最後まで回答してください。

2. あなたは博士後期課程(ドクターコース)に何を期待しますか？ あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

- a. 専門分野における高度で先端的な研究
- b. 研究者を目指すための研究力の養成とそのサポート体制
- c. 特定分野・業務の専門職を目指すための教育・就職支援体制
- d. 高度で専門的な資格・免許を取得するための教育・サポート体制
- e. 専門職にとどまらない、多様な課題発見・解決力が必要となる職域のリーダーを目指すための研究・教育環境
- f. 海外や国際機関での活動を目指すために必要な事柄を学ぶことができる環境
- g. グローバルに活躍できる人材となるための企業や国内外の大学とも連携した実践的な研究・教育環境
- h. その他()

3. 奈良女子大学大学院博士後期課程(ドクターコース)についての下記の項目に、どの程度関心があるかお尋ねします。「関心がある」から「関心がない」のうちからいずれか一つを選択して、チェックを入れて下さい。

	関心がある	関心がある	言えぬ	関心がある	関心がない
「広い視野を持ち高度な専門能力を有する女性リーダーの育成」のための教育	<input type="checkbox"/>				
専門的で高度な知識や技能の習得	<input type="checkbox"/>				
長期履修学生制度や「ならっこネット」など、女性のライフイベントに寄り添った修学サポート体制	<input type="checkbox"/>				
留学生や社会人の修学を支援する取組み	<input type="checkbox"/>				
インターンシップをはじめとするキャリア開発支援による大学院生の修学・就職支援体制	<input type="checkbox"/>				

(裏に続きます)

4. 現在計画中の博士後期課程(ドクターコース)の改組(組織改変)と関連して、下記の項目に、どの程度関心があるかお尋ねします。「関心がある」から「関心がない」のうちからいずれか一つを選択して、チェックを入れて下さい。

	関 心 が あ る	関 心 が あ る	少 し あ ら な い	ど ち ら か あ ら な い	あ ま り あ ら な い	関 心 が あ ら な い
学部や大学院前期課程の組織との関係性がわかり易い専修系専攻の設置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
異分野の研究者・学生との連携・交流の場となる複合系プログラムの提供	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
社会人経験を経たからの学び直しを後押しする支援制度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
留学生や社会人学生を積極的に受け入れるためのサポート体制	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
短～長期インターンシップなどキャリア開発・就職活動を支援するサポート体制	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

5. あなたは、奈良女子大学大学院博士後期課程に進学したいと思いますか？下記から一つ選んで記号に○をつけて下さい。

- a. 強く思う
- b. 思う
- c. (経済的負担など)事情が許せば、進学したいと思う
- d. 少し思う
- e. あまり思わない
- f. まったく思わない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。